

入選 高学年の部 まる子と友蔵よ、永遠に

茨城県
桜川市立南飯田小学校 五年

安田 桃佳

古室恒男七十八才。身長百五十七センチ。体重五十二キロ。しゅ味、ゲートボール。特技、けんすい。好きな食べ物、寿司。これが、日々、わたしを育ててくれている祖父だ。わたしと祖父は、ちびまる子の「まる子と友蔵」と家族からよばれるくらい仲が良い。祖父とは、ぴったり気が合うし、とてもわたしをかわいがってくれる。

毎日恒例のせい比べでは、わたしの頭からまつすぐ手をもつてこない。必ず、目まであるわたしの身長を鼻の所にもつてきて、「中学校になったら、ぬかれちゃいますね。」と、きまつて言うおちゃめな祖父だ。家族は、「もう、今年にぬくんじゃない。」なんて心無いことをいうが、わたしは、「そうですね。」と軽く、さらつと返事をするようにしている。身長なんて、わたしより大きくても小さくてもわたしよりえらいことにはかわりないからだいじょうぶだよ。おじいちゃん。

もちろん、きびしいときだつてある。でも、正しいからなつて得してしまふ。祖父は、わたしとの約束を決してやぶつたことがない。じゅくの送りむかえも、絶対おくれたことがない。自分にもきびしい人だ。だから、わたしは、しかられたときには素直に「ごめんさい。」が言える。

祖父は毎日日記を書いている。国語で勉強した兼好法師と同じく「つれづれなるままにひくらしところらうつりゆくよしなしごとをかきつくれば。」なのねと

思っていたら、そうではなかった。祖父が毎日きちんと日記を書いているのは、わたしたち家族のためだった。後々、いろいろなことが分からなくてこまらないように、地いきのならわしやさまざまなことが書かれていた。

今年の春、そんな祖父が原因不明の病気にかかつてしまった。病院で、つかれが出たと言われて、家でりよう養することにになった。それでも頭がいたいのは治らず、今度は全身にしつしんができてしまった。今度はひふ科に行つた。病名は帯状ほうしんといひ、その病院でも体全体にできる帯状ほうしんは三例目ということだった。通常一部分だけできてほしいのに体全体というのだから相当いたかつたはずだ。相変わらずがまん強い。完治するまでに、一か月半かかつた。その間に、祖父と仲良しのわたしは祖父の菌から水ぼうそうになり、二人仲良くりよう養することになった。祖父は、申し訳なさそうだったが、わたしは、早く水ぼうそうにかかれてほつとした。やつぱり二人の仲は本物だった。

後二月で、祖父は七十九才になる。お誕生日プレゼントは、手作りの花束を予定している。七十九本に二つずつ「ありがとう」の手紙をつけるつもりだ。いっぱいあるのでそろそろ準備を始めようと思う。これからも輝け古室恒男七十九才。まる子と友蔵は永遠だよ。